



集合研修後のフォローアップシステムのご案内

◆こんなお悩みは……

- ✓ 集合研修は実施しているが、一過性で、学んだ知識やノウハウが定着しない。
- ✓ 集合研修は必要だが、費用が高すぎるのが悩みの種だ。
- ✓ 集合研修で知識やノウハウを身に付くが、現場での活用はハードルが高い。
- ✓ 集合研修のパフォーマンスについて、トップからの目が厳しくなっている。

などなど



◆集合研修後のフォローアップのご提案

- 担当講師＋研修担当セッションとがタイアップ
- 集合研修担当講師が、研修テーマをキーワードに編集した情報誌(A4 6～8ページ)とチャレンジレポートでフォローアップ。
- 情報誌とチャレンジレポートで、学んだ知識やノウハウの再確認・定着、そして応用力のアップを目指します。

研修担当講師＋研修担当セッションと

受講生との双方向コミュニケーション

研修講師＋研修担当

研修後
1ヶ月目

○×通信(情報誌)
チャレンジレポート

研修後
3ヶ月目

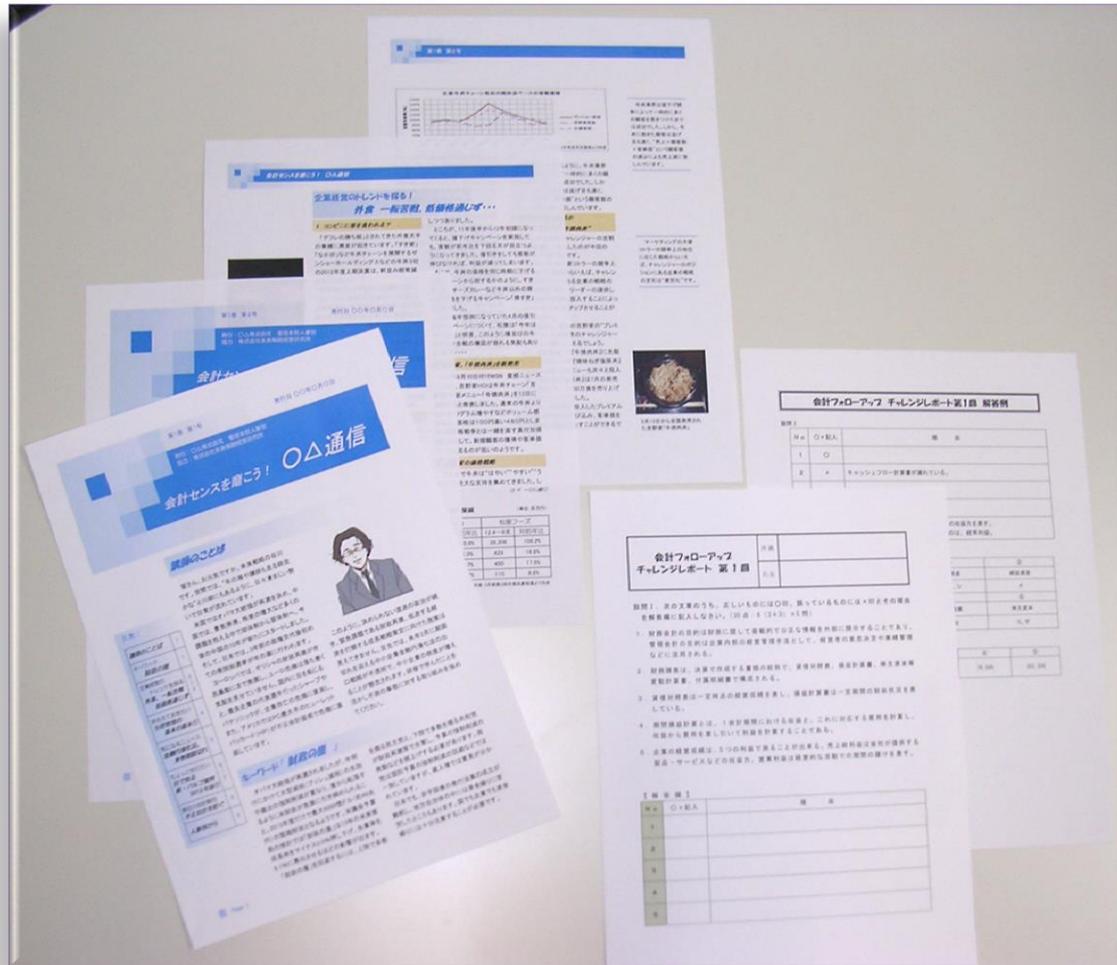
○×通信(情報誌)
チャレンジレポート

研修後
5ヶ月目

○×通信(情報誌)
チャレンジレポート

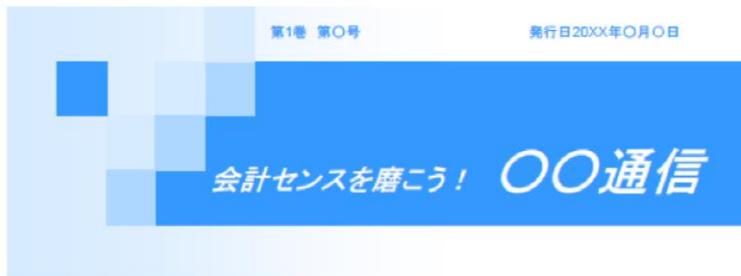
受
講
生

<アフターフォローN社の例>



<アフターフォロー>

(内容例)



講師のことは

皆さん、お元気ですか。未来戦略の谷川です。年末に発行いたしました〇〇通信第1号、如何だったでしょうか。

さて、昨年末の懐かしい中で行われた衆議院議員総選挙の結果、3年余り迷走を続けた〇〇政権から〇〇に政権が復帰しました。この政権復帰を好感してマーケットは、円安、株高に動き始めました。〇〇政権が打ち出した金融緩和・財政出動・成長戦略を3本柱とする〇〇ミックスは、早速、無制限の金融緩和、インフレターゲット〇%目標の設定、今年度の大規模補正予算案の策定など本格的に動き出しました。年が明けると、〇〇ミックスは更に好感され、円は一時92円を超え、株価も変動幅は大きいものの11,000円を超えてきました。円高で苦しんでいた輸出企業を中心に円安傾向を歓迎し、景気回復につなげていきたいとの意欲的な発言も聞かれます。但し、リスク面を見ると、財政出動による財政悪化が国債の金利上昇、そして、長期金利の上昇につながるべくと企業経営にとって苦しい展開になる可



能性も争んでいます。どちらにしても、これから年度末に向けて、〇〇ミックスによる金融緩和、財政出動での円安・株高は一時的な効果しか見込めないでしょう。本格的に日本が再生していくには、成長戦略などという生易しいものではなく既得権にまで踏み込んだ構造改革への着手如何と書われています。

目先では、年度末にかけて中小企業の倒産増が懸念されます。研修で学んだことを活かし、不測の事態の予防に力を注いでください。

キーワード「電子書籍」

電子書籍とは、インターネット経由で取り込むデジタル形式の書籍。データの形で電子書店で販売され、利用者はリアルの書店と同様に多彩な書籍の中から自由に選ぶことが出来ます。購入したり、読んだりするには専用端末やタブレット(多機能携帯端末)、スマートフォン(スマホ)などで行います。

消費者は端末に多くの書籍を「収納」して自由に読んだり持ち歩いたりできます。紙の書籍と異なり、売り切れの心配もなく、販売促進のための柔軟な価格設定もできます。

調査会社イ〇〇〇〇〇によると、2012年度の国内電子書籍市場は713億円で、有料の電子書籍を購入したことがある利用者は〇%に止まっています。今後の展開は、米〇〇〇〇〇〇〇や米〇〇〇〇〇〇〇などの参入を追い風にして、2016年度には2,000億円に拡大すると予測されています。また、〇〇総研によると、電子書籍を読むための専用端末やタブレットの普及も進み、2012年度だけで合計500万台弱が出荷される見通しです。

目次:

講師のことは	1
キーワード「電子書籍」	1
はるばるのトレンドを探る 黄金地帯を 狙う経営 新指標「CCC」 採用広がる	2 3
押さえておきたい 多岐管理の 基本の基本	4
気になるニュース 米〇〇〇〇 (〇〇〇〇〇〇) オープン	5
ちょっと知りたい 目で見る 新・ノルブ管理 2012年版	6 7
最近の会計動向 深読みを求めるか 環境改善か	8
人事部から	8

(チャレンジレポート例)

会計フォローアップ チャレンジレポート 第〇回	所属	
	氏名	

設問 I. 次の文章を読み、各空欄に適切な語句を解答欄に記入しなさい。

(50点: 5点×10問)

1. 企業の財政状況及び を、 上の数値を用いて分析することを経営分析という。経営分析は、広義と狭義に分けられる。

広義の経営分析とは、通常2期以上の を基に収益性、安全性、生産性、成長性などを分析する 分析、損益分岐点分析、企業の営業活動など通じて生じる現金の流れを分析する 分析、管理会計的な手法の情報などを含めた の分析の手法に関する総称のことである。

損益分岐点分析は、収益と費用が均衡する点(損益分岐点)を見つけ、その と現在の売上高を比較して、安全余裕率を測定し、その規定要因である変動費率、固定費、売価を中心として企業の収益性や安全性を診るものである。

2. 総資本利益率は、売上高利益率と総資本回転率の2つに分解できる。売上高利益率は、売上総利益など5種類の利益を分子に用い を分析する指標であり、総資本回転率は、総資本が1事業年度で何回転したかという資本の を分析する指標である。

資本利益率が前年度より低下した場合、その低下要因として以下のことが考えられる。損益計算書に影響する売上高利益率に原因があるものとしては、売上高の 、原価の がある。また、貸借対照表に影響する総資本回転率に原因があるものとしては、 などがある。

【解答欄】

<input type="text" value="①"/>	<input type="text" value="②"/>	<input type="text" value="③"/>	<input type="text" value="④"/>	<input type="text" value="⑤"/>
<input type="text" value="⑥"/>	<input type="text" value="⑦"/>	<input type="text" value="⑧"/>	<input type="text" value="⑨"/>	<input type="text" value="⑩"/>